報 告

平成29年度一般社団法人日本風工学会年次研究発表会・社員総会報告 Report on the 2017 Annual Meeting of JAWE

長谷部 寛*
Hiroshi HASEBE

平成29年度一般社団法人日本風工学会年次研究発表会および社員総会が、平成29年5月24日(水)、25日(木)の両日、新潟工科大学南棟S1大講義室(写真1参照)を会場として開催された。2日間合計で10セッション53編の研究発表が行われ、活発な議論がなされた。参加者は名誉会員2名、正会員74名、賛助会員1名、学生会員13名、非会員2名の合計92名であった。

第1日目は午前9時30分から開始された。研究発表に先立ち、富永禎秀実行委員長(新潟工科大学)から挨拶があり(写真2参照)、新潟工科大学に風洞が設置された経緯と、柏崎と風の間に密接な関係があることなどの話があった。その後、5セッション、26編の研究発表が行われた(写真3参照)。

午後3時30分からは、国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長の上石勲氏に

による「雪氷災害予測システムと気象災害軽減イノベーションハブ」と題した特別講演が行われた(写真4参照)。

防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの取り組み

写真2 富永禎秀実行委員長による開会挨拶

写真1 新潟工科大学キャンパス

写真3 会場内の様子

* 日本大学理工学部土木工学科 准教授 (運営・学術委員会 幹事)
Associate Professor, Department of Civil Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

を中心として、雪崩災害とその調査の実態、雪の性質、吹雪や着雪などによる事故とその対策、今後の計画など多岐に渡る講演内容であった。雪崩災害の調査に関わる話題の中で、雪を掘ってその断面にインクをかけると、通常の雪は層状の筋が見えるのに対して、雪崩はいつさい筋が見られない。このような方法で雪崩の範囲を把握しているという説明があり、雪崩の雪の性質を知ることができた。今回の年次研究発表会の中にも、風と雪に関する発表もあり、風と雪の密接さを再認識する有意義な特別講演となった。

午後4時30分からは同会場において、一般社団法人日本風工学会平成29年度社員総会が開催された。その後、会場を福利厚生棟1階食堂 granF に移して懇親会が開かれた。懇親会には、(おそらく本会にとって初めての出来事と思われるが) 櫻井雅浩柏崎市長、大川秀雄新潟工科大学学長が参加され、祝辞をいただいた。参加者は80名にもものぼり、年齢や職域の枠を超えて交流した。野村卓史会長(日本大学)の開会挨拶、櫻井市長の祝辞、大川学長の祝辞・乾杯で始まった会には、柏崎名物の鯛の料理や、新潟工科大学から提供された地酒などが用意されており、新潟・柏崎の味を存分に堪能することができた。また、昨年の本会40周年を記念して立川俱子様より提供されたワインも振舞われた。恒例の風工学会賞等受賞者によるスピーチでは、受賞者の受賞に対する思いや本会の思い出など、様々なエピソードを知ることができた。

第2日目は午前9時30分からセッションが開始され、午後3時30分まで5セッション27編の研究発表が行われ、1日目に引き続き活発な討議が行われた。閉会にあたっては、白土博通運営・学術委員会委員長(京都大学)より閉会の挨拶があった。その中で、来年の年次大会は東京地区にてオーガナイズドセッション形式の開催となることが発表され、2日間の予定を無事終了した。

今回の年次大会では、メロンテクノス株式会社の技術展示ブース(風圧センサー等の展示)が設けられた。休憩時間に多くの参加者が展示ブースを訪れ、説明を熱心に聴く様子が見受けられた。さらに、両日に渡り新潟工科大学の風洞見学会が企画された。

最後に、今回の年次大会の開催にあたり多大なるご尽力をいただいた開催校の富永禎秀教授、会場設営から当日の運営補助、実験室見学にご協力くださった富永研究室の学生の皆様に厚く御礼申し上げます。

写真4 上石勲氏による特別講演

写真5 懇親会の様子

写真6 メロンテクノス株式会社による技術展示